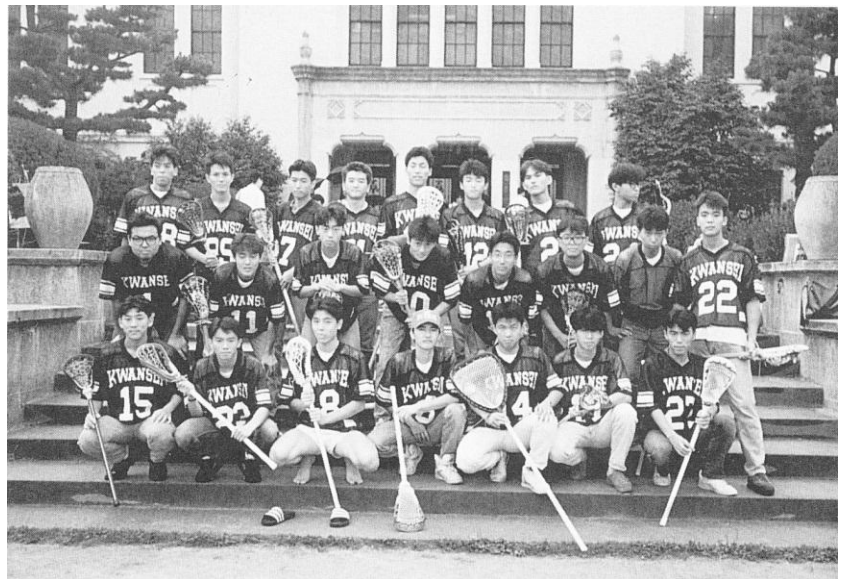




- 体育会名: 関西学院大学体育会ラクロス部
- 創部年: 1988年(昭和63年)
- 2025年度会員数:  
男子 129人(4年33人、3年35人、2年28人、1年33人)  
女子 92人(4年18人、3年26人、2年17人、1年31人)

- 同窓倶楽部名: 関西学院大学体育会ラクロス部同窓倶楽部  
\* 関西学院同窓会 公認団体
- 同窓倶楽部通称: 関西学院大学体育会ラクロス部 OBG 会  
□ 設立年: 1998年(平成10年)  
□ 会員数: 419人(男性199人、女性220人)

「地上最速の格闘技」と呼ばれ、多くの大学生を魅了してきたラクロス。日本に広まり約40年、多くの大学で体育会の一端を担う競技に成長している。関学体育会ラクロス部は創部から40年近く、日本ラクロス界



の誕生とともに道を切り拓いてきたパイオニアであり、男子チームは過去12度の関西制覇と3度の全日本選手権準優勝、女子は15度の関西制覇、3度の学生日本一、4度の全日本制覇という戦績を重ねてきた。(2025年9月末現在)

関学体育会ラクロス部の前身である「チームラクロス」が生まれたのは1988(昭和63)年のこと。高校時代に留学先のアメリカでラクロスを経験し、その魅力に取りつかれた半羽一裕が入学。慶大の学生により日本でもラクロスチームが始動したという話を耳にし、単身で慶大へ赴いたことがきっかけだった。

帰阪後にさっそくラクロスチーム設立の準備に取り掛かったが、携帯電話もインターネットもない時代、ラクロスの画像一つ手に入らない。留学先から持ち帰ったラクロス関係の資料をもとに、一色刷りの一枚のビラを作り、東京の学生を招いて普及イベントの試合を実現させた。こ

の試合を見た八木進太郎と寺本昌道の2人が最初のメンバーに加わり、関学にチームラクロスが発足した。

競技に必要な道具は何とか買い揃えて始動するも、当時はラクロスという競技への理解が進んでおらず、一般の施設を利用できずに門前払いになることもたびたびあったという。練習はもっぱら早朝に武庫川の河川敷や当時あった仁川の阪神競馬場グラウンドで行った。技術的にも戦略的にもゼロからのスタートではあったが、ひとつひとつ自分たちで考え、切り開いていった。その姿勢こそが、関学ラクロスの根底にある。

一方女子チームは、男子チームの存在を知った小西美穂を中心に結成された。初代部長である田淵結文学部教授(当時)の紹介で、既にラクロス部があった神戸松蔭女子学院大を訪ね、拝借した海外の試合の録画ビデオに映る、その華麗で豪快な競技スタイルに一目惚れし、関西で2番目となる女子チームの結成に至った。

海外の解説書やビデオテープを翻訳し、夜行バスで関東の先駆者のもとを訪ねるなど、全てを自分たちで行った。練習が終われば他大学への普及活動も行い、選手でありながらコーチでもあり、そして日本国内のラクロス普及活動にも努めるパイオニアであった。競技に魅せら



れ、自ら環境を切り開き強さを追求するそのパイオニア精神こそが、脈々と受け継がれていた関学ラクロスの精神でもある。

普及活動が実を結び、90年に日本学生ラクロス連盟西日本支部が発足。男子7チーム、女子

10チームの参加により開催された第1回関西学生リーグは男女とも関学が優勝を飾った。

同年12月の第1回全日本選手権には関東学生リーグ・関西学生リーグの1、2位チームが出場。関学は女子が決勝へ進むも、東京女子



体大に2-8で敗れた。

91年の関西学生リーグでも、男女ともに関西制覇。全日本選手権では女子チームが前年の雪辱を果たし、関西勢として初めて全日本優勝を勝ち取った。

92年も関西学生リーグでは男女ともに勝って3連覇。さらに93、94年と女子チームは2年連続で関西と全国の2冠制覇を果たした。大会史上初の延長戦となった94年の決勝では、キャプテンでエースでもあった山本伸子が鮮やかに決勝点を決める劇的な展開となり、歓喜の中で校歌「空の翼」を大熱唱する姿は、今もなお語り継がれる名場面の一つである。

そのような草創期を経て、チームラクロスが体育会を目指し始めたのは93年頃のことだった。ラクロスが新参者のスポーツとして扱われていた当時、活動の中心は「体育会に昇格」することではなく、学内にラクロスという「体育会にも負けないチームがある」と周知してもらうことだった。

学内でラクロスを認知してもらいたいと、上ヶ原キャンパスのサッカーグラウンドで豪州のクラブチームとの国際親善試合を行い、手弁当であるが学内でのレセプションも開催した。ラクロスが関学の目指す国際親善にも寄与する競技であることや、自分たちの活動を少しでも理解してもらいたい一心であった。

そして組織としての確立を目指してサークルの体制を見直す中で、体育会昇格への想いは強まり、94年に体育会への加盟申請を開始した。体育会学生本部、応援団総部、体育会各部への挨拶廻りからはじまり、地道に活動を続けた。

95年の阪神・淡路大震災では、練習に使用していたグラウンドの大半に仮設住宅が建てられる中、男女メンバーが関西学院救援ボランティア委員会によるボランティア活動に参加。戦績面で頂点を、そして組織として体育会加盟を目指した。その後も継続的に続けてきた加盟申請活動と、男女チームの戦績が評価され、また当時の菊池泰弘体育会学生本部長の熱心な協力もあり、98年10月に体育会準加盟が実現。体育会ラクロスクラブが始動した。

この間、ラクロス界では社会人クラブチームが台頭し、学生と社会人チーム混合で行われる全日本選手権が大きな壁となって立ちはだかりはじめた。

2000年、女子チームは初めて2部リーグ降格を経験するが、翌01年には2部で準優勝、1部の甲南女子大を破って1部に復帰した。02年3月にはATリーダーの北川瞳がその功績を認められ、ラクロスクラブ初となる体育会功労賞を受賞した。

そして02年、体育会昇格に向けて、体育会学生本部はラクロス委員会を設置、正式昇格への戦績面の条件を「男女ともに関西2位以上、全日本選手権出場」とした。



戦績以上に、サークルと体育会の違いは何なのか、なぜ体育会を目指すのか、改めて自問自答しながら頂点を目指す日々が続いた。体育会との折衝は男女の主将主務が毎日のように交渉にあたり、部長の田淵結教授にも多大なる尽力をいただいた。練習場所のないラクロス部に快くグラウンドを貸してくださるなど多くの方々の支えもあり、男女共に関西学生リーグ準優勝、全日本選手権出場と戦績面の条件をクリア、体育会学生本部長に部編入願書を提出した。幹部会、部長会を通じ会長の承認を得て、03年3月20日、創部から15年を経て悲願の正式昇格を果たした。関西学院大学体育会ラクロス部のスタートである。

体育会昇格元年となった03年、関西学生リーグで山田直輝率いる男子チームは京大を下し、悲願の関西制覇と全日ベスト4を果たし、ゴールーの高橋大輔が体育会功労賞を受賞した。男子は07年と09年にも関西制覇。09年には第1回全日本大学選手権が開催され、男子が出場して準優勝に輝いた。

11年には馬野桃子率いる女子チームが94年以来17年ぶりの関西制覇を成し遂げた。順当に勝ち進んだ全日本大学選手権の決勝会場は93年、関学女子が全日本選手権で初優勝した駒沢オリンピック競技場。試合はシーソーゲームの末、4年ATの小田早織が決勝点を決め、男女通して大会史上初の関西勢による大学日本一を果たした。

関西勢が関東勢を下したのは、94年全日本選手権の関学以来17年ぶりであり、体育会昇格から9年、悲願の大学日本一であった。小田は大会の最優秀選手に選ばれ、翌年3月に



はキャプテンの馬野桃子、AT リーダーの志渡友梨の2人が体育会功労賞を受賞した。

12年、商学部の阪智香氏が2代目部長に就任。13年には創

部25周年と体育会昇格10年目を迎えた。この節目の年に、後藤明日香率いる女子チームは2年ぶり8度目となる関西制覇を果たした。さらに翌14年には実に20年ぶりに男女そろって関西制覇を成し遂げ、全国学生選手権では関東の壁を打ち破ることは惜しくもできなかったものの共に準優勝と堂々の成績を収めた。

16年、成地夏美主将のもと女子チーム関西3連覇、5年ぶりの学生日本一、さらには22年ぶりに悲願の全日本選手権優勝と社会人も含めた真の日本一に輝いた。決勝の舞台の通称「江戸陸」には関西をはじめ全国からもたくさんのOB、OGが応援に駆け付け、アウェイの地を感じさせない青く染まった大応援団の姿は素晴らしい景色であった。

18年には創部30周年を記念したパーティーを開催し総勢150名を超えるOBOGが上ヶ原キャンパスに集合、30周年記念誌も作成した。

その後も18年には女子チームが関西制覇、19年には男子チームが5年ぶりの関西制覇と続いたが、20年は非常に辛く苦しい期間であった。世界的な新型コロナウイルス流行以降は満足なチーム活動が出来ず、公式戦も中止(学生たちの尽力により特別大会は開催された)になるなど非常に難しいチーム状況であった。

しかしながらこの間も、男子チームは勝浦主将、女子チームは船江主将のもと関学ラクロスの炎を絶やすことなくチームを守り続け、翌21年には男子チームが高野順平主将のもと関西制覇、全国学生選手権準優勝と堂々の戦績を収めた。女子チームも22年から24年まで関

西3連覇、全国学生選手権準優勝2度と関西ラクロスのトップを走り続けている。

これまで、体育会特別賞や功労賞の受賞、現役部員やOBからの日本代表選手の輩出、OGの審判としての国内、国際大会への参加など、ラクロス界において様々な場面で活躍している。

体育会42部中42番目の新しい部として、チーム創設当時のパイオニア精神を忘れることなく、これからも関西学院の名を背負い、伝統と歴史を積み重ねていきたい。

【戦績】 ※2025年9月現在

男子

- 関西制覇12度
- 全日本大学選手権 準優勝3度(2009,14,21)

女子

- 関西制覇15度
- 全日本大学選手権
  - 優勝3度(2011,16,18)
  - 準優勝4度(2013,14,15,22)
- 全日本選手権
  - 優勝4度(1991,93,94,2016)

## 【2025チーム】

男子



女子



## 【参考文献】

- 関西学院大学体育会ラクロス部(2009)『20年の誇り—関学ラクロス 20周年記念誌』
- 『30thの軌跡 関学ラクロス 30周年記念誌』(2018)